

寒い季節を快適に

東京学芸大学附属小金井小学校

実施学年：5年
生徒数：104人（3学級）

実施教科：家庭科
実施時間数：6時間

1. 寒い季節を住まうための工夫を考える
⇒衣食住など様々な工夫があることに気付く
2. 前時にあつかった工夫の中から、衣服について考える
⇒あたたかい着方がわかる
3. 普段生活している学校内を調べる
⇒「快適」とは、気温・明るさ・音などの条件がある



4. あたたかく住まうための、暖房器具の使い方を考える
⇒健康で安全に使うためには、換気が大切しかし、暖房器具を使うことはエコではない
5. 身のまわりを快適にする方法を考える
⇒日光を活用するなどエコの視点もとりいれながら、自分達の生活を改選していく



学習のねらい

- あたたかく明るい住まい方について理解している。
- 学習したことを自分の生活や今後の活動に関連づけて考えることができる。
- 季節の変化に合わせた生活の仕方に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。

学習活動

- ①寒い季節の住まい方を見直そう
- ②あたたかい衣服の着方を考えよう
- ③学校の中を調べてみよう
- ④暖房器具の適切な使い方を考えよう
- ⑤身のまわりを快適にしよう

準備品

模造紙・付箋・衣服・軍手・ビニール手袋・サーキュレーター・衣服・温度計・照度計・騒音計・湿度計・住宅模型・灰皿・お香・タブレットPC・ホワイトボード・ビデオカメラ・三脚

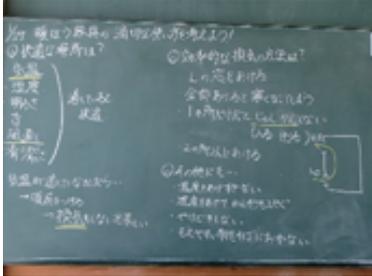
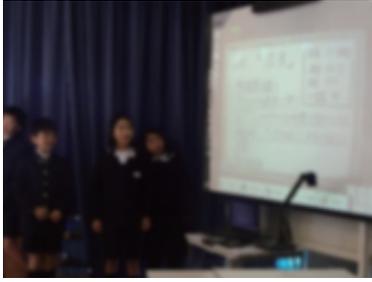
実施場所

家庭科室・学校内

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>○「寒い季節を快適に過ごすために、どのような工夫をしているか」をテーマに日々自分達が行っている工夫を見直していく。</p> <p>○一人一人が行っている工夫を付箋に書き込み、班ごとにグループに分ける。</p> <p>○全体であがったものを発表し、どのような工夫があるか、共有する。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適に住まうためには、いろいろな工夫をすることができる。 ・普段行っている工夫もグループに分けてみると、衣・食・住などに分類することができる。
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>○前時であがった工夫の中から、衣服の着方について考える。</p> <p>○衣服の形や素材によって、暖かさがどのように変わるか、実験をする。</p> <p>○暖かい衣服の着方とはどのようなものかを考えて、ワークシートに書く。</p> <p>○班で発表し、暖かい着方の工夫をまとめる。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・なんで重ね着をすると暖かくなるかわかった。 ・手袋にビニール手袋を重ねると、風を全然感じなかった。 ・素材や形だけでなく、色でも暖かさの感じ方がちがうと思った
<p>家庭科室 校舎内</p> <p>1 時間</p>	<p>○温度計、照度計、湿度計、騒音計の使い方を理解する。</p> <p>○自分達が「快適・快適ではない」と思うところを調べる。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内でも寒いところと、暖かいところがあり、快適さがちがう。 ・方角によっても、寒さや日当たりがちがう。 ・快適と感じるためには、「あたたかさ」や「静けさ」「明るさ」など、いろいろな条件が関連している。

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>○あたたかさを保つための方法として、暖房器具の使い方を考える。</p> <p>○快適を「安全・健康」ととらえ、換気に注目する。</p> <p>○住宅模型にお香の煙をためて、効率的な換気の方法を実験する。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓を一つ開けただけだと、あまり煙が外に出て行かない。 ・煙は上の窓からでていく。窓を全部開けてしまうと、部屋の温度が下がりがすぎしてしまう。
<p>家庭科室 校舎内</p> <p>2 時間</p>	<p>○快適に住むための条件を整理する。</p> <p>○今までの学習をふまえて、身のまわりを快適にする方法を条件ごとに班で考える。</p> <p>○まとめたことを発表する。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな条件が適度にそろそろ「快適」になる。 ・寒さを防ぐ方法から、すべてのことがつながっている。 ・一人一人が今どうすれば快適にすごせるか考えることが大切。

生徒の作品

Hand-drawn diagrams of clothing items (sweater, jacket, shirt) with handwritten Japanese text explaining their features and benefits.

A drawing of a person wearing a winter jacket and scarf, with handwritten text describing the clothing and its purpose.

種類	種類	種類	種類	種類	種類	種類
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	32	33	34	35
36	37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48	49
50	51	52	53	54	55	56
57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77
78	79	80	81	82	83	84
85	86	87	88	89	90	91
92	93	94	95	96	97	98
99	100	101	102	103	104	105

Hand-drawn diagrams of boxes and a table with handwritten text and numbers.

種類	種類	種類	種類	種類	種類
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66
67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84
85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96
97	98	99	100	101	102

Handwritten notes with diagrams and text, possibly related to a science experiment or project.

Handwritten notes with diagrams and text, possibly related to a science experiment or project.

先生の声

実施に当たり工夫した点
苦労した点

- 体験から学ぶことに重点をおき、日々の生活の場を意識させながら学習を行っていくようにした。
- 子ども自身が日々の生活の中で課題として感じていることを解決していくことで、子ども達が実感をもって理解し、思考を深めていけるようにした。

児童・生徒の反応

- 身のまわりの住生活に関心をもつようになった。
- 普段当たり前におこなっている生活の工夫を、改めて意識することができた。
- 家庭科の学習だけでなく、理科や日々の生活と結びつけて住まい方を考えられるようになった。例えば、理科の学習で暖かい空気は上に行くと学習しているが、生活の中で実感する機会は少なかった。しかし、換気の実験を通して、空気が対流していることがわかり、効果的な換気の仕方考えることができた。
- 子供たちが生活している中の課題として、家庭科室の窓側と廊下側の明るさの違いがあがった。窓側に座っている児童は明るすぎるのでカーテンを閉めたいが、カーテンを閉めると廊下側が暗くなりすぎて学習しづらくなってしまった。そこで、照明器具を活用し、廊下側だけ消したり、遮光カーテンではなく薄手のカーテンを閉めることで対処したりと両者が快適に過ごすための方法を探ることで解決することができた。

教師の変化
(担当、担当外を含めて)

- 計器を使って数値的に住環境を見ることで、住環境を児童により分かりやすく教えることができた。
- 児童だけでなく教師自身も学校の環境を意識し、住教育の教材開発を意識するようになった。